

“結核は過去の病ではありません。”

結核は、今でも年間10,000人以上新しい患者が発生し、1,600人以上が命を落としている日本の主要な感染症です。

結核の症状(長引く咳、たん、微熱、身体のだるさなど)には特徴的なものがなく、初期には目立たないことが多いため、特に高齢者では気づかないうちに進行してしまふことがあります。

結核を発症しても、早期に発見できれば重症化を防げるだけでなく、家族や友達等への感染拡大を防ぐことができます。咳やたんが2週間以上続いたり、微熱や体のだるさが続く場合は、早めに医療機関を受診しましょう。

そして、私たちが普段の生活で気を付けることは、免疫力が下がらないよう規則正しい生活を送ることです。栄養バランスの良い食事と十分な睡眠、適度な運動が大切です。定期的な健康診断を受けることもとても重要ですので、年に1度は健康診断を受けましょう。

「いまも1日平均28人が結核と診断されています。」



せき・たんが2週間以上続いたり、微熱や体のだるさが続く場合は、早めに医療機関を受診しましょう



※結核罹患率は、高齢者に多く、おおよそ60代(74%)は50歳以上、70代は60歳以上、80代は70歳以上、90代は80歳以上、100代は90歳以上です。

※結核の予防には、結核菌に感染しないことが大切です。

※結核菌は、紫外線に弱く、日光に当たると数時間で死滅します。

厚生労働省

厚生労働省 結核

Qどうやってうつるの?

A 結核を発病している人が、体の外に菌を出すことを「排菌」といいます。せきやくしゃみをすると飛沫(しぶき)に含まれる結核菌が空気中で飛び散り、それを他の人が吸い込むことにより「感染」します(空気感染)。なお、結核菌は紫外線に弱く、日光に当たると数時間で死滅します。

Qうつるとどうなっちゃうの?(感染って?)

A 結核菌を吸い込んで必ず「感染」するわけではありません。多くの場合、体の抵抗力により追い出されます。しかし、菌が体内に残ることがありますが、多くの場合、免疫によって封じ込められ、発病しません。ただし、高齢や合併症のために免疫力が低下すると、発病することもありますので、注意が必要です。

Q「感染」と「発病」ってどちらがうの?

A 「感染」したからといって、全ての人が「発病」するとは限りません。「発病」とは感染した後、結核菌が活動を始め、菌が増殖して体の組織を冒していくことです。症状が進むと、せきや痰(たん)と共に菌が空気中に吐き出される(排菌)ようになります。ただし、「発病」しても「排菌」していない場合は、他の人に感染させる心配はありません。

Qどこにかかればいいの?

A お近くの結核予防会の病院等で行うことができます(診療日、診療時間等は各施設へお問合せください)。お住まいの近くに結核予防会の病院等がない場合は、最寄りの保健所に問合せをすれば、地域で結核診療が可能な病院を教えてください。

Q治るの?

A 昔は多くの方が亡くなりました。今は薬(抗結核薬等)が開発され、きちんと薬を飲めば治ります。しかし、病院への受診が遅れたり、診断が遅れたりしたために病気が進行して重症になった場合や免疫状態が著しく低くなった場合には死に至ることもありますので、注意が必要です。

参考引用文献:

厚生労働省 結核HPより <https://www.mhlw.go.jp/content/001141314.pdf>

公益財団法人結核予防会HPより一部抜粋 https://www.jatahq.org/about_tb/qa